

アメリカ大学院・修士課程におけるスポーツマネジメント・プログラムの歴史とその将来 The History and Future in Sport Management Program

1K03B029-7 氏名 上村 脩

指導教員 主査 原田宗彦 先生 副査 間野義之 先生

第1章 緒言

1950年代以降、アメリカ合衆国におけるスポーツ産業は驚くべきスピードで成長を遂げた。今現在もMLB、NFL、NBA、NHLの4大スポーツを初め、スポーツ産業の経済的、地域的な拡大は続いている。2006年に発行されたスポーツビジネス・ジャーナル誌によるとスポーツビジネス産業は1999年の1820億ドル規模から2006年は2210億ドル規模に成長している(Kahlenberg, 2006)。

また産業の発展とともにスポーツマニジネスを学問として学ぼうとする人々も生まれた。そしてそのために多くの大学、大学院でスポーツマネジメント・プログラムが誕生した。

本研究では、スポーツマネジメント・プログラムの歴史や現状を紹介したい。そして得られたデータをもとに考察する。

第2章 スポーツマネジメント・プログラム発展の歴史

1950年代の後半、ウォルター・オマリー氏がコロンビア大学の教授にスポーツビジネスについて学ぶ場所を大学に作って欲しいと語ったのが、はじまりと言われている。そして1966年にオハイオ大学大学院に世界で初めてスポーツアドミニストレーション・プログラムが誕生する。その後、80、90年代と数多くの大学、大学院でスポーツマネジメント・プログラムが出来ている。

それらの多くは体育学部やレクリエーション学部、健康学部の流れを組んでおり、カリキュラムにはスポーツの歴史やスポーツ医科学系の授業も見られた。

第3章 近年の動向

2000年代に入り、スポーツマネジメント・プログラムを持つ大学が150校以上、大学院が50校以上と言われている。

多くの大学院ではこれまでと同様に、スポーツ志向の強いプログラムがある一方で、90年代半ばからビジネス・スクールと共同で作られたスポーツマネジメント・プログラムなども出来はじめた。またスポーツビジネスの市場規模の拡大や、各分野が専門化したことにより、各大学院が専門分野を持つようになりはじめた。

第4章 カリキュラムについて

今回の研究では、ビジネス・スクールなどと協力して作られたスポーツマネジメント・プログラム(MBAプログラム)と旧来の形をとるプログラム(MS/MAプログラム)に分けて、各々カリキュラムによって分類した。

結果より全体の科目数や必修科目数においてMBAプログラムの方がMS/MAプログラムより多いことが分かった。

またカリキュラムにおいてもビジネス・スクールの授業を履修するMBAプログラムはビジネス志向の非常に高いプログラムとなっていた。

そして、両プログラムの中にもスポーツマネジメントの一般を学ばせる大学院がある一方、ファイナンスやマーケティングなど特定の分野に特化したプログラムを展開する大学院も存在した。

第5章 考察

スポーツマネジメント・プログラムはスポーツ産業の拡大とともに成長した。またスポーツ産業のニーズにこたえようとプログラムの内容は変化してきた。

特に、近年スポーツ産業において各部門が専門化したことにより、スポーツマネジメント・プログラムが多様化・専門化していった。

第6章 結論

今後の将来としては、より一層スポーツマネジメントの一般論を学ぶ大学院と、特定の分野に照準を定めて学ぶプログラムの二極化が進むことが予想される。

その中で、スポーツマネジメント・プログラムが学問としての側面とスポーツ産業へ就職するための職業教育としての側面のバランスをとる事が求められる。

第7章 提言

マネジメントではなく、スポーツマネジメントを学ぶ価値、一般的なマーケティングではなくスポーツマーケティングを学ぶ価値とは何なのだろうか。今後、スポーツマネジメント・プログラムには大きな意味で他の学問とは違った価値を創造し、提供して行く事が求められる。